様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１２５０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５２８４１３１

研究課題名（和文）アラブ・イスラーム世界におけるマルクス主義の展開―運動・哲学・歴史像をめぐって

研究課題名（英文）The Development of Marxism in the Arab Muslim World : Its Dynamics, Historical Context, and Philosophical Roots

研究代表者
栗田　禎子（Kurita, Yoshiko）

千葉大学・文学部・教授

研究者番号：１０２２５２６１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,200,000円

研究成果の概要（和文）：　従来、現代中東の社会運動をめぐる研究では、専らいわゆる「イスラーム主義」運動のみが脚光を浴びる傾向があったが、本研究では中東におけるマルクス主義の問題に着目し、その展開過程の特質を、運動、思想、歴史的・社会的背景という角度から分析した。
　研究の結果、中東のマルクス主義はこの地域の置かれた社会的・経済的現実と対峙し、地域に根ざした「知」の伝統（アラブ・イスラーム哲学の蓄積等）とも対話・格闘しながら発展してきたものであり、欧米からの単なる「移植」の産物ではないことが明らかになった。また、中東の社会・政治のあり方に関する従来の固定的・静態的イメージの見直しを行なうことができた。

研究成果の概要（英文）：While most of the recent studies on popular movements in the Middle East have tended to concentrate on the so-called “Islamist” movements, this research examined the development of Marxism in the region. Analyzing the dynamics of Marxist movement in the Middle East, the research explored the socio-economic milieu and the historical context in which the movement emerged. A special attention has been paid to the nature of intellectual and philosophical tradition in the region (such as the heritage of the Arab-Islamic philosophy) as well, examining its significance for the development of Marxist ideas.
Investigating the roots of Marxism in the Middle East from social, ideological, and historical perspectives, the research has shed a light on the hitherto neglected aspect of the political and social history of the region.

研究分野：中東近現代史

キーワード：中東史　マルクス主義　アラブ・イスラーム哲学　民衆運動　世界資本主義

１．研究開始当初の背景

近年、現代中東における社会運動をめぐる研究ではもっぱらいわゆる「イスラーム主義」のみが脚光を浴びる傾向があったが、実際には近現代の中東には経済的・社会的諸矛盾と対峙する過程で「イスラーム主義」以外のさまざまな運動・思想潮流が生まれ、重要な役割を果たしてきた。

本研究では中でも中東におけるマルクス主義の問題に注目し、この地域でのマルクス主義思想・運動の展開のあり方を検討すると同時に、それを通じて中東の社会・政治の性格にも従来とは異なる角度から光を当てようとした。

２．研究の目的

本研究では中東、特にアラブ地域におけるマルクス主義の展開過程の特質を、運動、思想、社会的・歴史的背景等の諸側面から検討し、マルクス主義を、ヨーロッパからの単なる「移植」の産物として見るのではなく、地域の現実との格闘のなかで発展してきたものとして捉え、そのプロセスを動態的に分析することをめざした。

特に重視したのは、地域に根ざした「知」の伝統（アラブ・イスラーム哲学の蓄積等）との対話・葛藤の過程でどのような独自の展開が生まれたかに注目し、イスラームの歴史・哲学・思想に関する研究成果を生かしつつ分析を深めることである。

本研究の実施により、現代中東における社会運動をめぐる研究に新たな視角をもたらすと共に、非ヨーロッパ世界におけるマルクス主義の展開をめぐる研究の深化にも、比較の視座から寄与することをめざした。

３．研究の方法

本研究においては、中東のマルクス主義の展開の運動面における特質、思想面での特質、それらの特質を規定している社会的・経済的現実を明らかにするというアプローチをとり、これを実現するため、具体的には、「運動」班、「哲学・思想」班、「歴史像」班、「社会的・経済的現実」班、の４つの基礎的研究単位を設けて研究を行なった。

研究を実施するにあたっては、各班ごとにそれぞれのテーマに即した研究・調査・資料収集等を積み重ねる一方で、年数回の全体研究会の場で研究成果報告・討論・共通のテクストの検討等を行ない、全体テーマに関する理解の深化・共有を図った。

また、各班ごとの個別の現地調査を通じて中東や欧米の研究者・知識人等との研究交流を進めると共に、国際ワークショップや合同研究集会の開催によって研究成果の対外発信、国際的ネットワーク構築も行なった。

４．研究成果

（1）本研究では中東におけるマルクス主義の展開過程の特質を、運動、思想・哲学、歴史的源泉や社会的・経済的背景の分析を通じて多面的に明らかにすることができた。

中東におけるマルクス主義運動・諸組織の活動・実態を調査し（「運動」班）、現代中東が置かれた社会的・経済的状況を分析する（「社会的・経済的現実」班）と同時に、中東におけるマルクス主義の展開を支える思想的・哲学的源泉、歴史像までを視野に入れた考察を行なう（「哲学・思想」班、「歴史像」班）ことで、現代的アプローチと、これまで日本の中東・イスラーム研究の場で積み重ねられてきた歴史・哲学・思想研究の蓄積とを接合するユニークな成果が生み出されたと考えられる。

（2）研究の過程で明らかになった特に重要な論点としては以下の諸点が挙げられる。

①主として「哲学・思想」班による研究の結果、前近代のアラブ・イスラーム世界における合理的思弁の系譜が具体的・詳細に検討され、また、このような思想的・哲学的遺産が近代以降の当該地域におけるマルクス主義の発展の過程で積極的に見直され、位置づけられていることが明らかにされたこと。（後者の点に関しては、「哲学・思想」および「歴史像」班の活動に加え、プロジェクト全体での研究会の際の意見交換、さらに現代アラブのマルクス主義者による理論的著作の輪読・理解の共有という作業が有益であった。）

②主として「運動」班および「社会的・経済的現実」班による研究の結果、近現代の中東におけるマルクス主義の展開とこの地域における民族解放闘争の歴史との関係性が明らかにされたこと。マルクス主義が近現代の中東の政治史・思想史において持つ意味が、エジプト、シリア、スーダン等の地域が経てきた具体的な歴史的経験（植民地支配や占領）の文脈で検討され、民族解放闘の展開全体のなかでの位置づけ、他のタイプの運動との関係性や、共通点・差異等についても考察が進んだ。

③主として「運動」班を中心に中東におけるマルクス主義運動の展開の実態および担い手に関する分析が進んだ結果、運動のなかで多様な宗教・宗派やエスニック集団の出身者が果たした役割が明らかになったこと。また、運動の担い手のこのような多様な出自が、中東におけるマルクス主義の発展に思想面ではどのような影響を与え、どのような理論的・イデオロギー的特徴につながっているのかに関しても、「哲学・思想」班と協働する形で考察が深められた。さらに「運動」班による調査・資料収集の過程で、中東におけるマルクス主義運動の中での女性の役割・位置をめぐる分析が進み、ジェンダーの視角も導入された。

（3）本研究の進行過程では、当初主たる対象として念頭に置いていた狭義の中東（特にアラブ地域）だけでなく、中央アジアや東南アジア、中国をはじめとする東アジア地域での調査や資料収集、ネットワーク形成も予想

以上の進展を見せた。（特に「哲学・思想」班による中国での調査、ネットワーク形成や、「歴史像」班による東南アジアでの調査など。）「アラブ・イスラーム世界におけるマルクス主義」というテーマを、「アジアにおける（あるいは非西欧世界における）マルクス主義」、さらには現代の西欧・非西欧世界における社会運動のゆくえというテーマに発展・深化させていく具体的展望が得られたことは大きな成果であった。

（4）本研究の過程では、各メンバーによる研究論文発表、学会報告、図書の刊行等が積極的に行われた（下記５参照）のに加えて、全体会（平成 25 年度＝5 回、平成 26 年度＝4 回、平成 27 年度＝3 回、平成 28 年度＝3 回）の開催、また国際ワークショップ・合同研究集会の開催（平成 27 年度＝復旦大学 “Open Seminar on Islam and Marxism”,平成 28 年度＝東京大学東洋文化研究所 “The Role of Marxism in the Arab World Today”, ケンブリッジ大学 “Brainstorming Meeting on Islam and Marxism”）も実現した。その成果の一部は英文報告書（*Collected Essays on the Role of Marxism in the Arab World and the Other Related Issues,* March 2017）として刊行済みである。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　31 件）

① 長沢栄治、中東と日本の平和主義を考える――ラフィーク・シャーミーの作品を手がかりにして、詩人会議、査読無、55 巻 3 号、2017、67－75

② 栗田禎子、岐路に立つ世界と「戦争法」――現代史のなかで中東・日本・平和憲法を問い直す、歴史学研究、査読無、953 号、2017、35－42

③ 清水学（研究協力者）、イスラエル経済――グローバル化と「企業国家」、中東レビュー、査読有、4 号、2017、42－53

④ 長沢栄治、アラブ革命を振り返る――背景・展開・遺産、日本の科学者、査読無、51 巻 11 号、2016、6－11

⑤ Eiji Nagasawa, “Henri Curiel: A Jewish Egyptian Dedicated to Peace and Socialism”, 査読有、Mediterranean Review, 9-1, 2016, 77-96

⑥ 栗田禎子、パリの事件と「世界大戦」の足音、現代思想、査読無、43 巻 20 号、2016、46－52

⑦ 鈴木規夫、ダーイシュ幻想――新たな「世界観闘争」の時代に、現代思想、査読無、43 巻 20 号、2016、136－143

⑧ 清水学、ロシアの中東政策――プーチン大統領のシリア政策を通じて、中東レビュー、査読有、3 号、2016、49－73

⑨ 栗田禎子、「安保法制」と中東、法と民主主義、査読無、497 号、2015、26－30

⑩ 長沢栄治、革命から四年後のエジプト、小日本、査読無、23 号、2015、16－18

⑪ Eiji Nagasawa, “Mustaqbal anzima ma ba‘d al-Isti‘mar fi al-watan al-‘arabi”(The Future of Post-Colonial Regimes in the Arab World), Idafat(Bulletin of the Arab Association of Sociology), 査読有, 31-32, 2015, 134-140

⑫ Eiji Nagasawa, “Ta’ammulat hawla al-takhtit li-sinariyuhat muhtamala fi al-sharqal-awsat (Some Reflections on Scenario Planning for the Middle East), Mediterranean World, 査読無, 22, 2015, 169-182

⑬ 小林春夫・加藤瑞絵・倉澤理・矢口直英、原典研究：イブン・スィーナー著『治癒』形而上学（第一巻第四章）、イスラーム地域研究ジャーナル、査読無、7 号、2015、77－86

⑭ 清水学、習近平政権の中東アジア戦略――「一帯一路」との関係で、国際問題、査読無、647 号、2015、39－50

⑮ 長沢栄治、アズハルと 2011 年エジプト革命、ODYSSEUS 地域文化研究紀要、査読無、別冊２、2015、59－84

⑯ 長沢栄治、「7 月 3 日体制」下のエジプト、石油・天然ガスレビュー、査読無、49 巻 2 号、2015、1－16

⑰ 阿久津正幸、現代ジャワの二宮金次郎たち――伝統宗教の倫理と地域社会形成の比較研究、東京国際大学国際交流研究所通信、査読無、48 号、2015、70－79

⑱ 清水学、中国と湾岸を結ぶ南アジア、現代の中東、査読有、2 号、2015、138－156

⑲ 清水学、中央アジアの地政学と習近平政権の課題、東亜、査読無、3 号、2015、10－19

⑳ 長沢栄治、地域としての中東とシナリオ・プランニング、グローバル戦略課題としての中東（2030 年の見通しと対応）、査読無、1 号、2014、1－15

㉑ 水島多喜男、再生産表式における資本分布について（2）、徳島大学社会科学研究、査読無、28 号、2014、83－114

㉒ 水島多喜男、再生産表式における資本分布について（3）、徳島大学社会科学研究、査読無、28 号、2014、115－138

㉓ 阿久津正幸、イスラーム世界における hizmet――トルコ、エジプト、インドネシアの事例報告、イスラーム地域研究ジャーナル、査読無、5 号、2014、23－30

㉔ 阿久津正幸、ファーラービー『諸学通覧』知識のネットワークとムスリム社会、イスラーム：知の遺産、査読無、1 号、2014、33－59

㉕ 栗田禎子、エジプト革命第二ステージをめぐる心理戦、唯物論研究年誌、査読無、

2013、156－172

㉖ 栗田禎子、エジプト「六月三〇日革命」とオリエンタリズムの罠」、歴史評論、査読有、763 号、2013、53－62

㉗ 栗田禎子、原典研究：フサイン・ムルーワ著『アラブ・イスラーム哲学における唯物論的諸傾向』、イスラーム地域研究ジャーナル、査読無、5 号、2013、137－142

㉘ 長沢栄治、エジプト革命の課題――アラブ革命の展開の中で、現代思想、査読無、47 巻 17 号、2013、190－195

㉙ 長沢栄治、地域研究における私的なものと公的なもの、学術の動向、査読無、18 巻 7 号、2013、67－71

㉚ 小林春夫・仁子寿晴・加藤瑞絵・倉澤理、原典研究：イブン・スィーナー著『治癒』形而上学（第一巻第三章）、イスラーム地域研究ジャーナル、査読無、2013、103－136

㉛ 清水学、地域研究に関する試論――中東情勢を事例として、帝京経済学研究、査読有、47 号、2013、1－19

〔学会発表〕（計 19 件）

①Eiji Nagasawa, “Pioneer Researchers of the Studies on Modern Japan and Modern Egypt”, EJUST Open Seminar Series “Inter-Cultural Salon”, 2017 年 2 月 23 日、エジプト日本工科大学、ボルグ・エルアラブ、エジプト

②Yoshiko Kurita, “The Role of Marxism in the Arab World: The Case of Sudan”, International Workshop on the Role of Marxism in the Arab World, 2016 年 11 月 5 日、東京大学東洋文化研究所（東京都文京区）

③Manabu Shimizu, “The Middle East in the Period of Globalization and Financial Capital”, International Workshop on the Role of Marxism in the Arab World, 2016 年 11 月 5 日、東京大学東洋文化研究所（東京都文京区）

④栗田禎子、中東情勢と日本・世界のゆくえ、特別合同シンポジウム　今ふたたび平和と宗教と公共を問う、2016 年 10 月 16 日、上智大学（東京都千代田区）

⑤ Norio Suzuki, “Keynote Speech”, Brainstorming Meeting on Islam and Maxism（国際ワークショップの主催）、2017 年 3 月 28 日、Corpus Christi College, University of Cambridge, ケンブリッジ、連合王国

⑥Takio Mizushima,“Does Marxism take sole possession of Materialism?”, Brainstorming Meeting on Islam and Marxism, 2017 年 3 月 28 日、Corpus Christi College, University of Cambridge, ケンブリッジ、連合王国

⑦ Norio Suzuki, “Keynote Speech”, International Workshop on Islam and Marxism （中国における合同研究集会の主催）、2015 年 12 月 25 日、復旦大学、上海、中華人民共和国

⑧鈴木規夫、実心実学概念とイスラーム、第 13 回東アジア実学国際学術大会、2015 年 11 月 28 日、韓国中央研究院、大韓民国

⑨Norio Suzuki, “Religious Elements in Ritualizing”, International Seminar on the Meaning of Becoming an Adult in East Asia, 2015 年 10 月 22 日、Willamette University, アメリカ合衆国

⑩鈴木規夫、ダーイシュのポピュリズム、立命館大学ポピュリズム研究会、2015 年 9 月 2 日、キャンパスプラザ京都（京都市）

⑪ Masayuki Akutsu,“Comparing Two Muslim Societies in Egypt and Indonesia”, CIK Conference 2016 年 3 月 17 日、カイロ・アメリカン大学、エジプト

⑫Eiji Nagasawa, “ ‘Thawra’ and Nation State System in the Arab World”, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所ベイルート中東研究日本センター年次セミナー、2015 年 3 月 19 日、中東研究日本ｓエンター、ベイルート、レバノン

⑬長沢栄治、近代エジプトにおける革命の系譜、第 30 回日本中東学会公開講演会、2014 年 11 月 9 日、東京大学経済学部（東京都文京区）

⑭Yoshiko Kurita,“Linking the Middle East with World History”（パネルの主催）, WOCMES（世界中東研究会議）、2014 年 8 月 20 日、中東工科大学、アンカラ、トルコ共和国

⑮Masayuki Akutsu, “Traditional Ethics, Local Community, and Evolving into Human Society”, ガジャマダ大学日本語学会、2014 年 9 月 20 日、ガジャマダ大学、インドネシア

⑯Masayuki Akutsu, “Comparison between Japanese and Indonesian Societies”, ミニア市教育委員会、2014 年 8 月 23 日、ミニア市、エジプト

⑰小林春夫、イブン・スィーナーからスフラワルディーへ、第 10 回中東イスラーム世界セミナー、2013 年 12 月 21 日、東京大学駒場キャンパス（東京都目黒区）

⑱鈴木規夫、「中国に科学はない」か？――ヨーロッパ近代知と日中関係の諸相、蘭州大学西北民族学院招聘講演、2014 年 3 月 26 日、蘭州大学西北民族学院、蘭州、中華人民共和国

⑲Yoshiko Kurita, “Beyond Sectarianism”, Pugwash Conference on Science and World Affairs, 2013 年 11 月 4 日、Movenpick Hotel, アンカラ、トルコ共和国

〔図書〕（計 10 件）

① 長沢栄治・栗田禎子（編）、中東と日本の針路、大月書店、2016、259

② 長沢栄治・後藤晃（編）、現代中東を読み解く、明石書店、2016、266
③ 藤田和子・文京珠・鈴木規夫他、新自由主義下のアジア、ミネルヴァ書房、2016、96－113
④ 川喜田敦子・西芳美・長沢栄治他、歴史としてのレジリエンス、京都大学出版会、2016、368
⑤ Sandra Calkins, Enrico Ille, Richard Rottenburg, Yoshiko Kurita, Emerging Orders in the Sudans, Langaa Research & Publishing CIG, Cameroon, 2015, 25-38
⑥ 小川晴久・張践・金彦鐘・鈴木規夫他、日中韓思想家ハンドブック、勉誠出版、2015、320
⑦ 塩尻和子・阿久津正幸他、変革期イスラーム社会の宗教と紛争、明石書店、2016、357
⑧ 鎌田東二・板垣雄三・阿久津正幸他、スピリチュアリティと平和、ビイング・ネット・プレス、2015、132
⑨ 栗田禎子、中東革命のゆくえ―現代史のなかの中東・世界・日本、大月書店、2014、267
⑩ 小林春夫、知の継承と展開――イスラームの東と西、明治書院、2014、232

〔その他〕
最終年度末の報告書冊子として
Yoshiko Kurita (ed.), *Collected Essays on the Role of Marxism in the Arab World and the Other Related Issues*（英文）, 2017 年 3 月、千葉、総ページ数 76 頁を刊行した。

６．研究組織

(1)研究代表者
栗田　禎子（KURITA, Yoshiko）
千葉大学大学院・人文科学研究院・教授
研究者番号：10225261

(2)研究分担者
長澤　栄治（NAGASAWA, Eiji）
東京大学・東洋文化研究所・教授
研究者番号：00272493

水島　多喜男（MIZUSHIMA, Takio）
徳島大学・総合科学研究科・教授
研究者番号：10219628

小林　春夫（KOBAYASHI, Haruo）
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：70242229

鈴木　規夫（SUZUKI, Norio）
愛知大学・国際コミュニケーション学部・教授
研究者番号：70271468

(3)研究協力者
阿久津　正幸（AKUTSU, Masayuki）
元東京大学研究員
ラジオ・プレス職員
(平成 27 年度まで研究分担者)

清水　学（SHIMIZU, Manabu）
元一橋大学・宇都宮大学・帝京大学教授

千代崎　未央（CHIYOZAKI, Mio）
千葉大学大学院単位取得退学
放送大学職員

平野　淳一（Hirano Junichi）
元日本学術振興会特別研究員
(平成 26 年度まで研究協力者)

湯川　武（YUKAWA, Takeshi）
慶應義塾大学名誉教授
（平成 26 年 3 月に逝去）